



# 「治安対策重点プログラム2011」

- 平成23年の推進結果 -



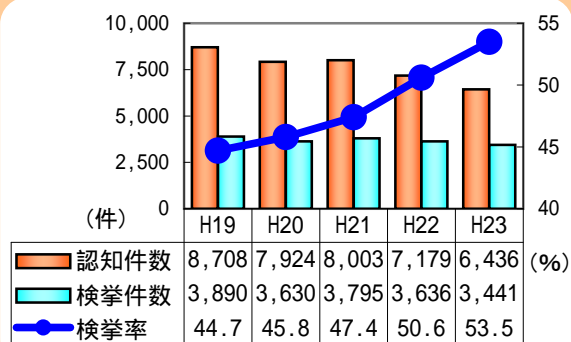
山 形 県 警 察

# 1 犯罪等の防止

## ◆ 刑法犯の情勢

- 平成23年中の刑法犯認知件数は、前年と比べ万引きや自転車盗が減少したことから、全体で約1割減少し、戦後最少となりました。
- 検挙件数は前年を下回りましたが、侵入窃盗の検挙件数が増加したことから、検挙率は5年連続で上昇し、過去10年で最高の53.5%となりました。

## 刑法犯の認知・検挙状況の推移



## 山形県は？

昨年は、人口10万人当たりの刑法犯認知件数を示す「犯罪率」が全国で2番目に少ない県となり、犯罪検挙率は全国で3番目に高い県となるなど、治安水準の高い県であると言えます。

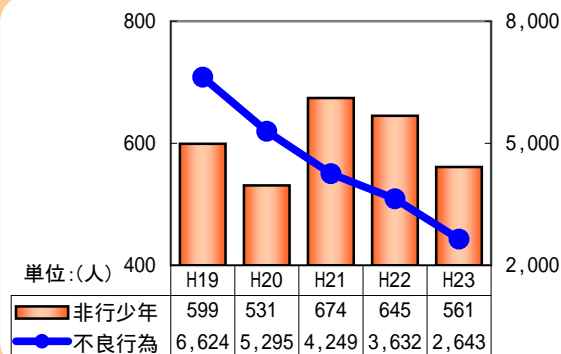
## ◆ 非行少年の情勢

- 平成23年中の非行少年は、前年よりも84人減少しましたが、強姦未遂などの悪質な非行も発生しました。
- 不良行為少年は、5年連続で前年を下回りました。飲酒、喫煙、深夜はいかいの3行為で全体の89.4%を占めています。

非行少年・・・「犯罪少年 触法少年 く犯少年」をいう。  
 犯罪行為をした14歳以上20歳未満の者  
 刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の者  
 少年の性格、行状などからみて将来、罪を犯し、又は刑罰法令に触れる行為をするおそれのある20歳未満の者

不良行為少年  
 非行少年には該当しないが、飲酒、喫煙、深夜はいかいなどを行って警察に補導された20歳未満の者をいう。

## 非行少年等・不良行為少年の推移



## ◆ 県民が不安を感じる犯罪等の抑止

- 子どもを犯罪から守るため、登下校時の「子ども見守り隊」のパトロールに加えて、「こども110番連絡車」が7,159台に増加し、見守り活動を充実させました。
- 児童、生徒を対象とした防犯教室や不審者対応訓練を行い、専門学校等での防犯講話や護身術の指導を行いました。また、青色回転灯を装備した車両を増やし、防犯パトロールを強化しました。
- 交番や駐在所の警察官が、防犯関係団体と連携し、駅前の駐輪場で自転車盗難防止の呼びかけをしたり、郊外の大規模店舗で万引き防止広報をするなど地域の特性にあわせた防犯広報活動を行いました。

## ◆ 次代を担う少年の健全育成

- 各警察署で学校や少年警察ボランティアなどと連携した中高生の対話会を開催したほか、非行防止活動を実施するブロック少年サポートセンター活動を行いました。
- 県内中学校、高等学校において、非行防止教室、薬物乱用防止教室を継続的に開催しました。
- 少年相談、立ち直り支援活動を推進し、昨年8月からはメールを利用した相談窓口を設け、相談しやすい環境を整えました。

## 防犯ボランティア等との連携・協働

### 青色回転灯装備車出発式



### 専門学校における護身術指導



少年相談メール窓口 ~ひとりで悩んでいませんか~  
 メールアドレス [yamagata-youngmail@mint.ocn.ne.jp](mailto:yamagata-youngmail@mint.ocn.ne.jp)



## 2 犯罪の検挙と事件事故への対応

### ◆ 平成23年における主な検挙状況等

#### 【重要犯罪の検挙】

鶴岡市内での新生児殺人、死体遺棄事件(5月)  
 真室川町内での実母殺人事件(7月)  
 山形市内でのわいせつ目的略取、強姦致傷事件(9月)  
 南陽市内での酒店強盗未遂事件(9月)  
 酒田市内での非現住建造物等放火未遂事件(11月)  
 山形市内高校における建造物侵入、強姦未遂事件(12月)

#### 【組織犯罪等の検挙】

フィリピン人による偽造トラベラーズチェック使用詐欺事件(5月、8月)  
 暴力団排除条例制定後の暴力団幹部による建設業法違反事件(9月)  
 フィリピン人による銀行法(地下銀行)違反事件(8月、9月)

#### 【振り込め詐欺事件の検挙】

警察官を騙る訪問型オレオレ詐欺(7月)  
 振り込め詐欺助長犯罪で28件、15名を検挙

#### 【悪質商法・ヤミ金融等の検挙】

利殖勧誘事犯等3事件の検挙  
 全国規模のヤミ金融6業者19名を摘発

### ◆ 事件事故への対応施策

- 振り込め詐欺被害防止のための新たな取組みとして、振り込め詐欺コールセンターを設置し、電話による被害防止の注意喚起を呼び掛けました。
- 山形県暴力団排除条例を制定し、関係事業者に対する説明会を開催したり、「みかじめ料縁切り同盟」を結成しました。
- 山形市松山町内会では、「松山地区暴力追放を促進する会」を結成し、暴力団の進出阻止や事務所撤去活動などの暴力団排除活動を推進しました。

#### 振り込め詐欺コールセンター

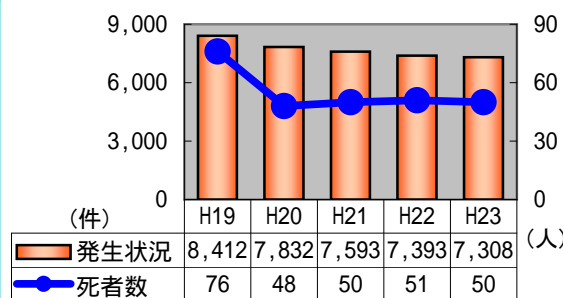


## 3 交通事故防止に向けた総合的な取組み

### ◆ 交通事故の情勢

- 平成23年中の交通事故発生件数は、6年連続で減少し、4年連続で8千件を下回りました。  
 死者数も前年より1人減少し、50人となりました。
- 死亡事故の特徴としては
  - 高齢者の死者の割合が高い(全死者の約6割)
  - 国道や県道の幹線道路での発生が多い(全死者の約8割)
 ことなどが挙げられます。

#### 交通事故発生状況等の推移



### ◆ 高齢者事故の防止

- 民生児童委員などと協働して高齢者宅訪問活動を行い、交通事故防止の個別指導を行いました。(約13万世帯)  
 また、関係団体と連携して「おたすけナイト作戦」を実施し、夜光反射タスキの配付、着用普及活動を推進しました。(夜光反射タスキ 1万8,000本を配付)
- 約3,000人の高齢者を対象に「ゆとり号」による運転適性診断を行い、また、約14,000人を対象に指定自動車教習所での安全講習を行いました。  
 そのほか、新しく制定された高齢運転者標識の広報ポスター、チラシを各種講習会で活用し、普及促進を図りました。

#### 高齢者宅訪問活動



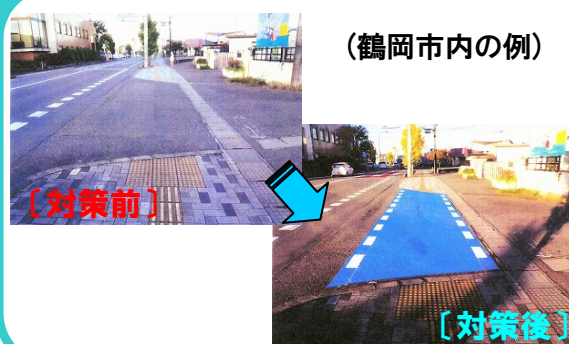
#### ◆ 道路交通環境の整備

- 道路管理者と連携し、県内75か所の交差点に運転者の注意を促す注意喚起・ドットラインの表示などを行うことで、交差点の安全対策を推進しました。
- 右折矢印が付いた信号機の設置や最高速度規制の見直しなどにより、交通渋滞の解消を図りました。
- 横断歩道のカラー化や、交差点におけるバリアフリー化を推進し、歩行者の安全通行の確保に努めました。
- 行楽期、各種イベント時期には信号機の表示サイクルを調整し、交通渋滞解消を図りました。

#### ◆ 交通秩序の維持と交通安全意識の向上

- 各種講習会を利用して、幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に自転車の安全指導を行いました。
- 温泉客などに対する飲酒運転撲滅キャンペーンを行い、飲酒運転の防止を図りました。
- 広報啓発用DVD「交通ルールを守る。大切な命を守る。」を警察署ロビーで上映するなどして、シートベルト・チャイルドシートの着用推進を図りました。
- Webサイト「ママ安心ナビステーション」にチャイルドシートの使用を促す記事を掲載するなど広報啓発活動を推進しました。

#### 歩行者などの安全通行確保(ドットライン表示)



#### 自転車に対する安全指導



## 4 安全・安心を支える基盤づくり

#### ◆ 精強な第一線警察の構築

- 現場執行力の強化と受傷事故防止を目的として、女性警察官を対象とした総合術科訓練を行いました。
- 若手警察官の早期育成のため、総合術科訓練を継続的に推進しています。

#### ◆ 現場執行力を支える基盤の整備

- 「交番・駐在所整備3か年計画」を策定し、警察施設の計画的整備を推進しています。

#### 女性警察官の総合術科訓練



## あとかぎ

平成23年は、刑法犯認知件数、交通事故発生件数ともに前年よりも減少するなど、総じて平穏に推移しました。

しかしながら、高齢者が被害者となる利殖勧誘事犯や振り込め詐欺、さらには、子どもに対する声かけ事案や女性を対象とする凶悪犯罪など社会的弱者が被害者となる犯罪が依然として跡を絶たないことなど、県警察が取り組むべき課題はまだ多いものと認識しております。

このため、警察としてましては、多様な事件・事故に的確に対応するための教養訓練や、交番・駐在所などの基盤整備を行う一方、防犯ボランティアなどの関係機関・団体と連携を深め、「犯罪の起きにくい社会づくりの推進」、「高齢者の交通事故防止対策の推進」などに重点的に取り組んでまいります。

また、平成24年はプログラムの施策を一部修正するとともに、名称を「治安対策重点プログラム2012」とし、安全・安心な山形県の実現に向け、同プログラムに掲げた施策を着実に推進してまいりますので、今後とも、御理解と御協力をお願いいたします。